

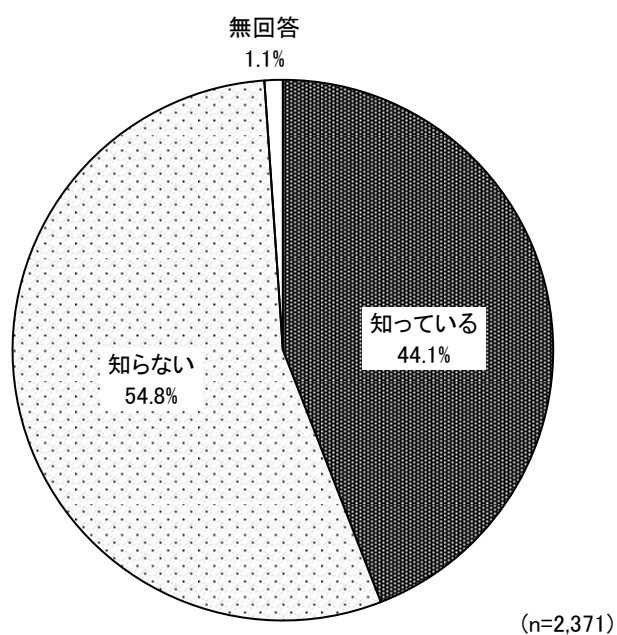
## 4. ふるさと納税

### (1) 「ふるさと納税」による区民税減収の認知度

◎ 「知っている」が4割半ば

問9 「ふるさと納税」に伴う区民税の控除により、世田谷区では令和元年度で約54億円の減収が見込まれる深刻な状況になっています。あなたは、この現状をご存知ですか。(〇は1つ)

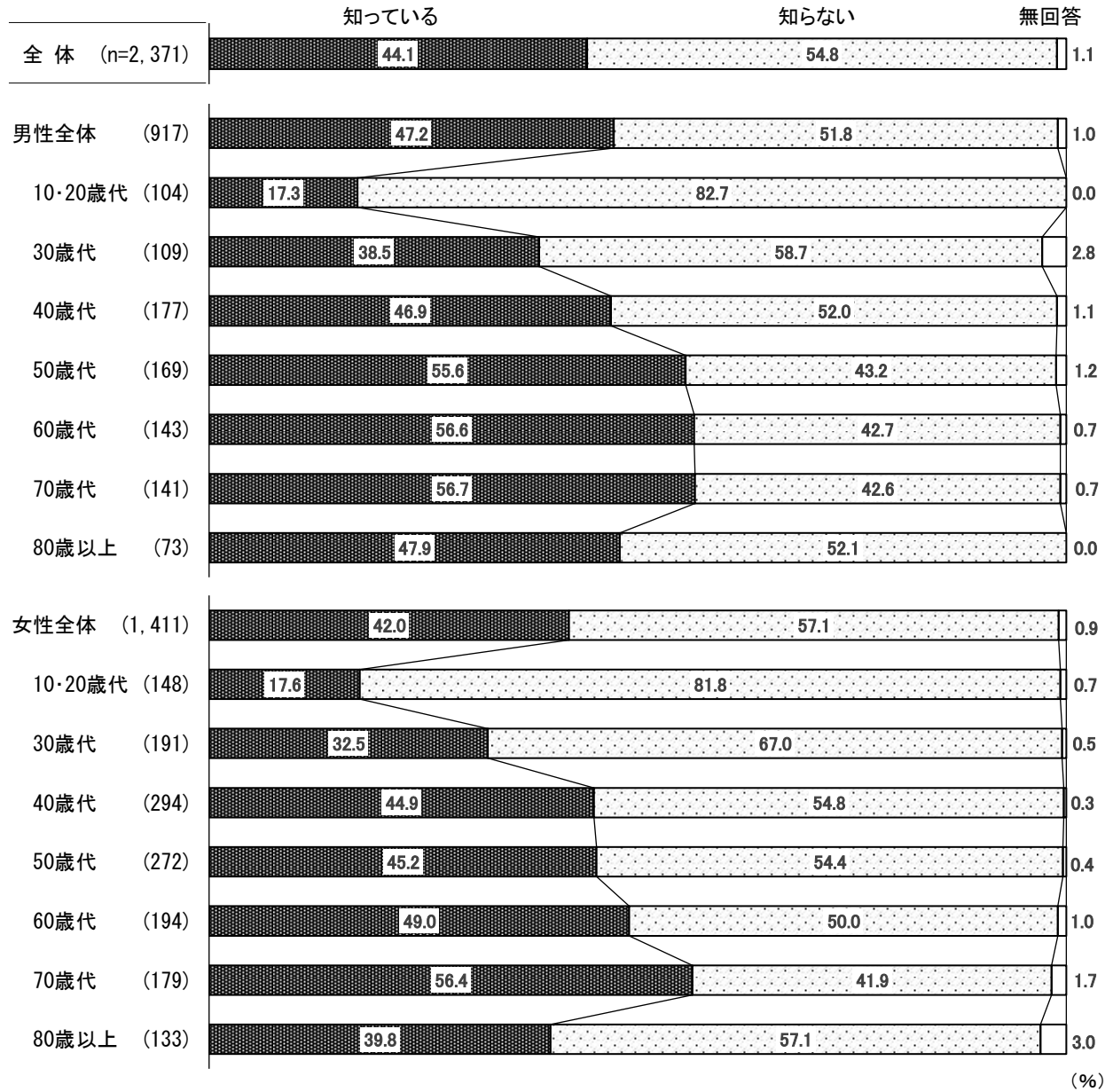
図4-1-1



#### <調査結果>

「ふるさと納税」による区民税減収について聞いたところ、「知っている」(44.1%)が4割半ば、「知らない」(54.8%)が5割半ばとなっている。(図4-1-1)

図4-1-2 「ふるさと納税」による区民税減収の認知度(性・年齢別)



<調査結果>

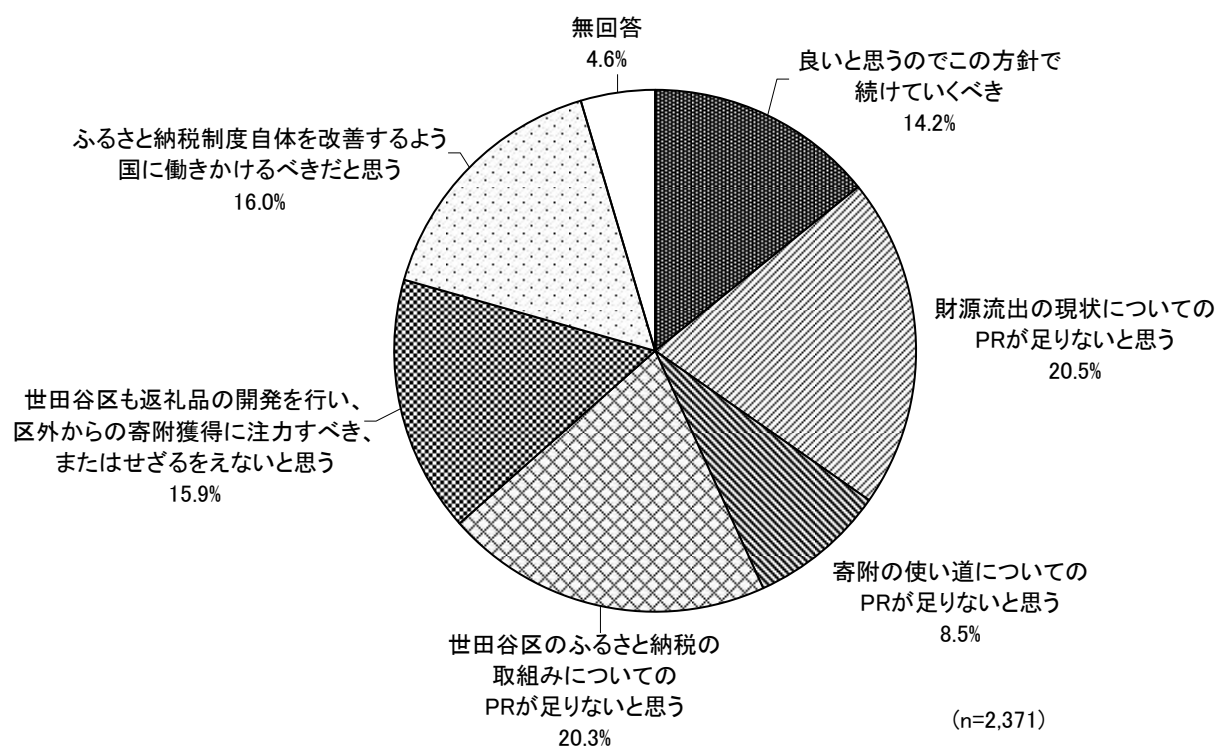
性・年齢別にみると、「知っている」は男性の60歳代と70歳代が6割近く、女性の70歳代と男性の50歳代が5割半ば、女性の60歳代がほぼ5割となっている。男女とも10・20歳代は「知っている」が2割近くと他の年代に比べ低い。(図4-1-2)

(2) 「ふるさと納税」に対する区の方針について

◎「財源流出の現状についてのPRが足りないと思う」がほぼ2割、「世田谷区のふるさと納税の取組みについてのPRが足りないと思う」が2割

問10 世田谷区では、返礼品目当てだけの「ふるさと納税」について立ち止まって考えていただけるよう問9のような財源流出の現状を伝えるとともに、返礼品競争には加わらず、「ふるさと納税」の本来の趣旨に沿って使い道をお示しして区内外からの応援をお願いしています。こうした区の方針について、あなたの考えに最も近いものはどれですか。(〇は1つ)

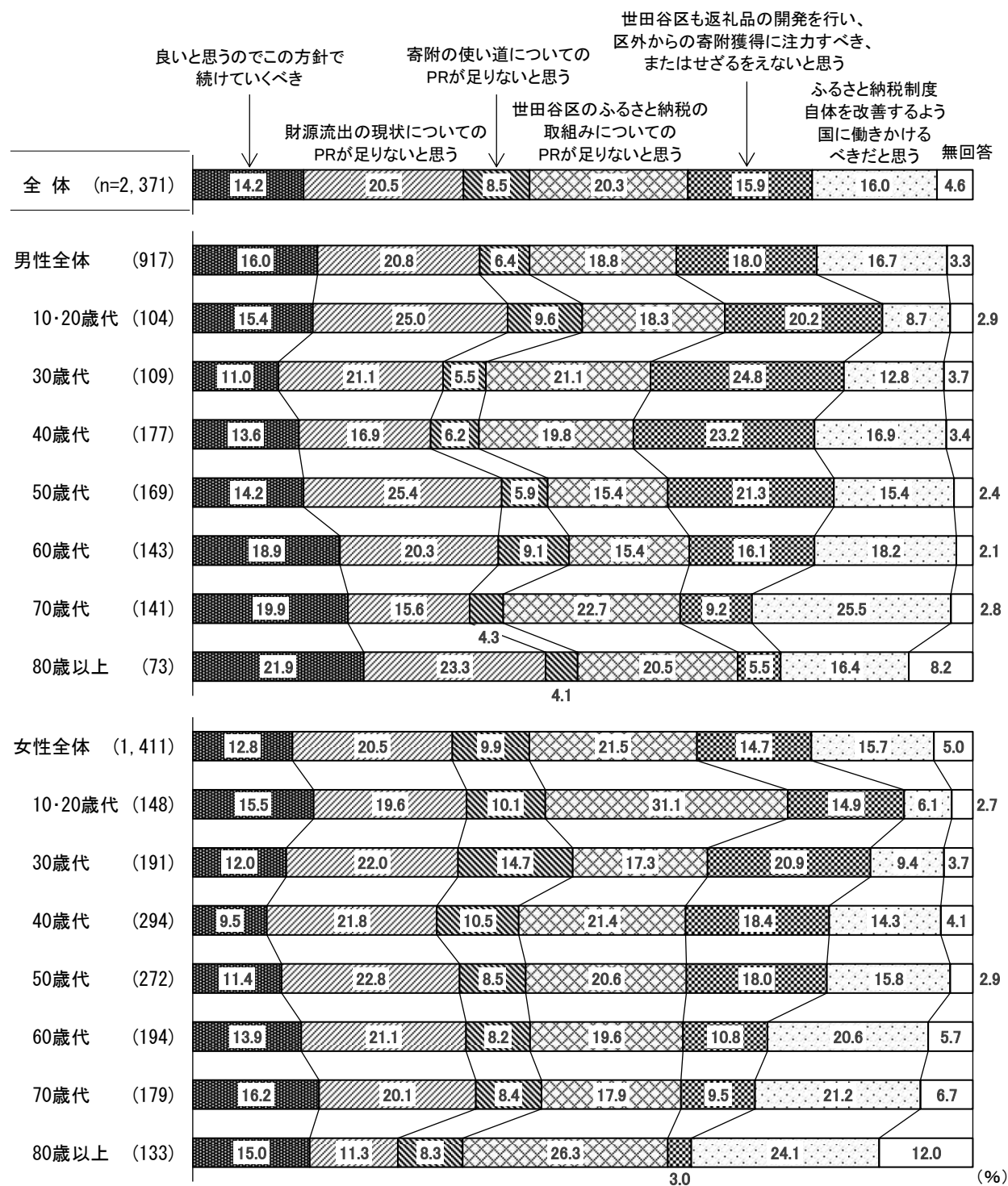
図4-2-1



<調査結果>

「ふるさと納税」に対する区の方針について聞いたところ、「財源流出の現状についてのPRが足りないと思う」(20.5%)がほぼ2割、「世田谷区のふるさと納税の取組みについてのPRが足りないと思う」(20.3%)が2割、以下、「ふるさと納税制度自体を改善するよう国に働きかけるべきだと思う」(16.0%)、「世田谷区も返礼品の開発を行い、区外からの寄附獲得に注力すべき、またはせざるをえないと思う」(15.9%)、「良いと思うのでこの方針で続けていくべき」(14.2%)などと続く。(図4-2-1)

図4-2-2 「ふるさと納税」に対する区の方針について(性・年齢別)



<調査結果>

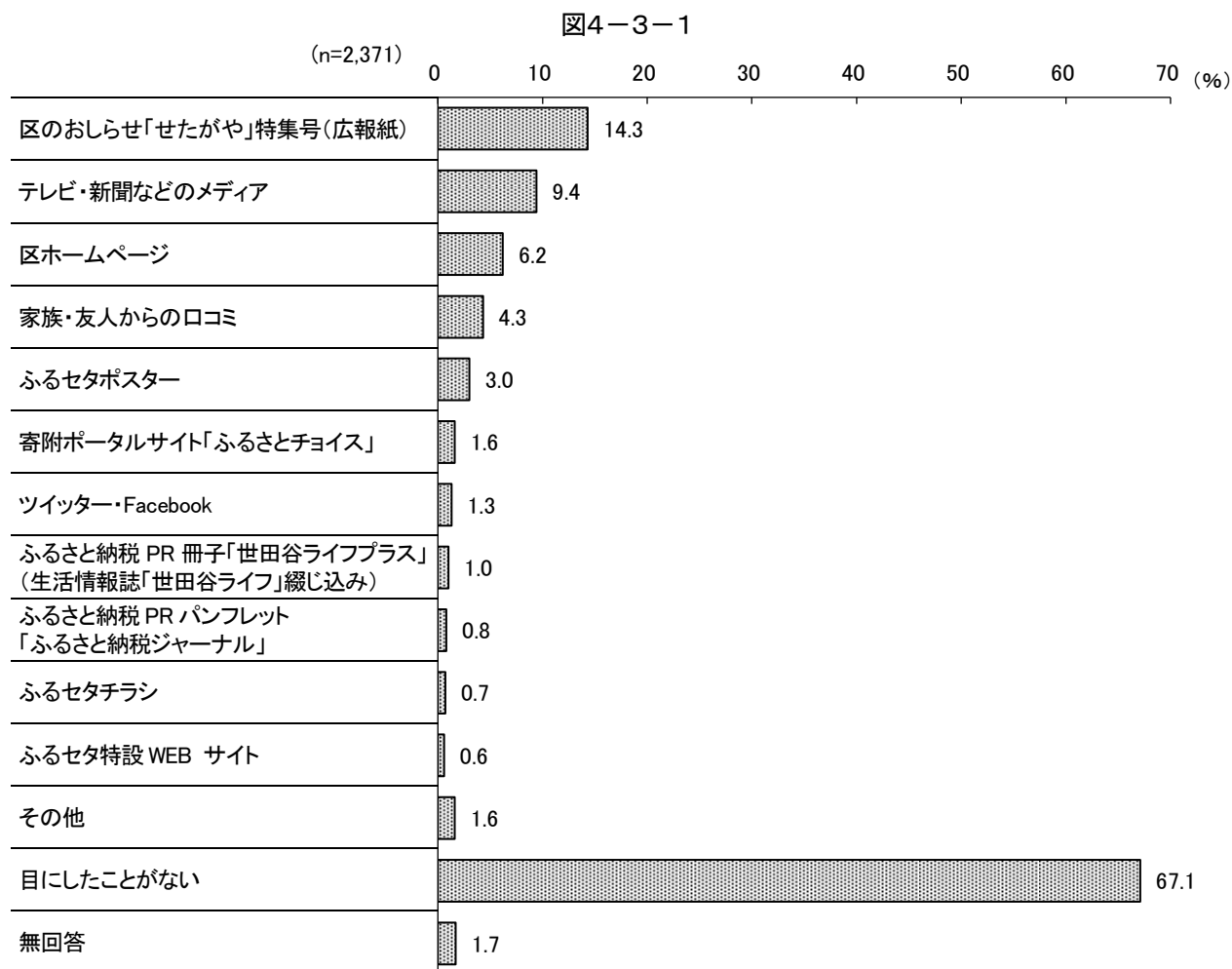
性・年齢別にみると、「財源流出の現状についてのPRが足りないと思う」は女性の80歳以上を除くすべての年代で1割半ば～2割半ばとなっている。「世田谷区のふるさと納税の取組みについてのPRが足りないと思う」は女性の10・20歳代が3割を超え、80歳以上が2割半ば、「ふるさと納税制度自体を改善するよう国に働きかけるべきだと思う」は男性の70歳代と女性の80歳以上で2割半ばとなっている。

(図4-2-2)

### (3) 区の「ふるさと納税」取組みの認知経路

◎ 「目にしたことがない」が7割近く

問11 あなたは、世田谷区の「ふるさと納税」の取組みをこれまでどのような媒体で目にしたことがありますか。(〇はいくつでも)



#### <調査結果>

区の「ふるさと納税」の取組みについて聞いたところ、「目にしたことがない」(67.1%)が7割近くとなっている。目にした中では、「区のおしらせ『せたがや』特集号(広報紙)」(14.3%)が最も高く、以下、「テレビ・新聞などのメディア」(9.4%)、「区ホームページ」(6.2%)などと続く。

(図4-3-1)

表4-3-1 区の「ふるさと納税」取組みの認知経路(性・年齢別)

(%)

	n	区ホームページ	ふるさと特設WEBサイト	寄附ポータルサイト「ふるさとチョイス」	ツイッター・Facebook	区のおしらせ「せたがや」特集号(広報紙)	ふるさと納税PRパンフレット「ふるさと納税ジャーナル」	ふるさと納税PR冊子「世田谷ライフ」(生活情報誌「世田谷ライフ」綴じ込み)	ふるさとポスター	ふるさとチラシ	家族・友人からの口コミ	テレビ・新聞などのメディア	その他	目にしたことがない	無回答	
全体	2,371	6.2	0.6	1.6	1.3	14.3	0.8	1.0	3.0	0.7	4.3	9.4	1.6	67.1	1.7	
性・年齢別	男性全体	917	7.3	0.7	1.2	1.4	13.1	1.1	0.9	2.8	0.3	2.7	8.8	1.7	68.2	1.7
	10・20歳代	104	6.7	1.0	1.9	4.8	4.8	1.0	-	1.9	1.0	3.8	6.7	1.0	76.9	-
	30歳代	109	2.8	-	0.9	-	0.9	0.9	-	4.6	-	0.9	3.7	0.9	84.4	1.8
	40歳代	177	5.1	1.1	1.1	1.7	4.5	-	-	5.6	0.6	1.1	5.1	0.6	78.5	1.1
	50歳代	169	5.9	0.6	1.8	1.2	10.7	0.6	-	1.2	0.6	2.4	8.9	2.4	71.0	0.6
	60歳代	143	9.1	-	0.7	1.4	16.8	-	1.4	1.4	-	4.2	14.0	0.7	61.5	2.8
	70歳代	141	13.5	0.7	1.4	0.7	28.4	2.8	0.7	2.1	-	3.5	12.1	4.3	50.4	2.8
	80歳以上	73	8.2	1.4	-	-	32.9	4.1	6.8	2.7	-	4.1	12.3	2.7	46.6	4.1
	女性全体	1,411	5.5	0.6	2.0	1.3	15.1	0.7	0.9	3.0	1.0	5.3	9.9	1.6	66.8	1.3
	10・20歳代	148	2.0	-	1.4	2.7	0.7	0.7	0.7	4.1	-	2.7	5.4	-	86.5	-
	30歳代	191	6.8	0.5	1.6	2.1	2.1	-	0.5	4.2	3.1	3.1	6.3	0.5	81.2	-
	40歳代	294	4.4	0.7	3.1	1.7	9.5	0.3	0.7	5.4	0.7	4.4	6.5	1.4	73.5	0.3
	50歳代	272	4.8	1.5	3.3	1.5	9.2	0.4	0.4	1.8	0.7	4.0	9.6	2.2	72.1	0.4
	60歳代	194	6.2	0.5	2.6	0.5	25.3	0.5	2.1	1.0	-	4.6	9.8	2.1	60.3	0.5
70歳代	179	6.7	-	-	-	38.5	1.7	2.2	2.8	0.6	11.7	18.4	1.1	40.8	3.4	
80歳以上	133	8.3	-	-	-	27.8	2.3	-	0.8	2.3	8.3	16.5	4.5	42.9	6.8	

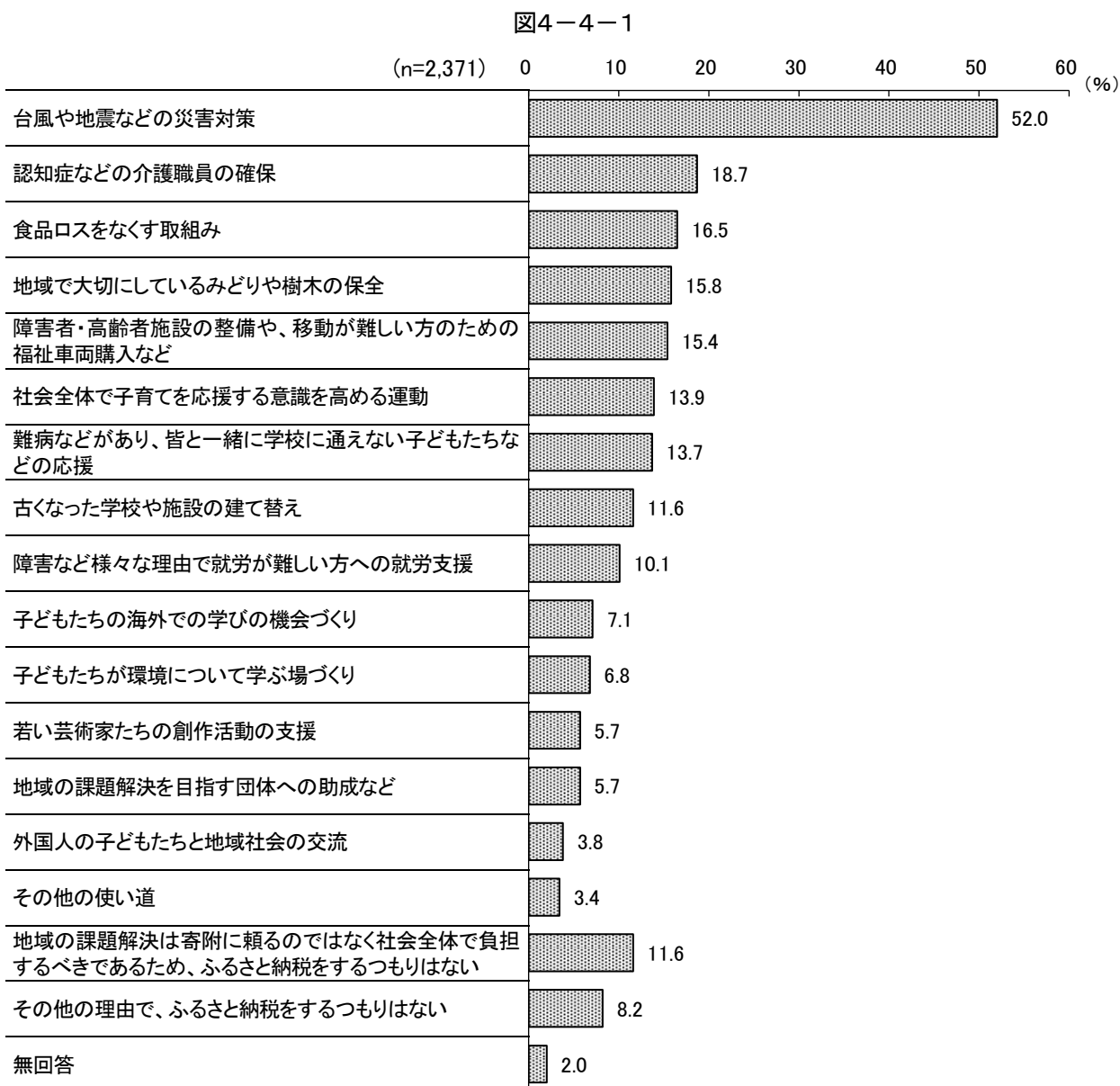
<調査結果>

性・年齢別にみると、「目にしたことがない」は若年層の方が高く、女性の10・20歳代で9割近く、男性の30歳代で8割半ば、女性の30歳代で8割を超えている。「区のおしらせ『せたがや』特集号(広報紙)」は女性の70歳代が4割近く、男性の80歳以上が3割を超え、男性の70歳代と女性の80歳以上が3割近く、60歳代が2割半ばとなっている。(表4-3-1)

#### (4) 「ふるさと納税」寄附の使い道

◎「台風や地震などの災害対策」が5割を超える

問12 以下の使い道について、あなたが寄附（ふるさと納税）をしたいと思うものはどれですか。  
（〇は3つまで）



#### <調査結果>

「ふるさと納税」の寄附の使い道について聞いたところ、「台風や地震などの災害対策」（52.0%）が5割を超えて最も高い。以下、「認知症などの介護職員の確保」（18.7%）、「食品ロスをなくす取組み」（16.5%）、「地域で大切にしているみどりや樹木の保全」（15.8%）、「障害者・高齢者施設の整備や、移動が難しい方のための福祉車両購入など」（15.4%）などと続く。（図4-4-1）

表4-4-1 「ふるさと納税」寄附の使い道(性・年齢別)

(%)

	n	台風や地震などの災害対策	難病などがあり、皆と一緒に学校に通えない子どもたちなどの応援	福祉車両購入など	障害者・高齢者施設の整備や、移動が難しい方のための	障害など様々な理由で就労が難しい方への就労支援	認知症などの介護職員の確保	社会全体で子育てを応援する意識を高める運動	若い芸術家たちの創作活動の支援	外国人の子どもたちと地域社会の交流	古くなった学校や施設の建て替え	子どもたちの海外での学びの機会づくり	地域で大切にしているみどりや樹木の保全	子どもたちが環境について学ぶ場づくり	食品ロスをなくす取組み	地域の課題解決を目指す団体への助成など	その他の使い道	すべきであるため、ふるさと納税をするつもりはない	その他の理由で、ふるさと納税をするつもりはない	無回答
全体	2,371	52.0	13.7	15.4	10.1	18.7	13.9	5.7	3.8	11.6	7.1	15.8	6.8	16.5	5.7	3.4	11.6	8.2	2.0	
性・年齢別	男性全体	917	47.3	13.8	16.2	10.5	15.9	16.0	7.2	4.4	10.5	6.0	14.6	7.0	15.2	5.9	3.8	13.2	10.6	2.2
	10・20歳代	104	54.8	15.4	8.7	8.7	2.9	17.3	9.6	6.7	12.5	8.7	9.6	6.7	18.3	9.6	6.7	4.8	10.6	-
	30歳代	109	45.0	16.5	6.4	11.0	4.6	20.2	10.1	5.5	16.5	6.4	21.1	13.8	16.5	4.6	4.6	11.9	6.4	2.8
	40歳代	177	48.6	18.6	13.0	10.7	13.6	25.4	11.9	7.9	15.3	10.2	15.3	10.2	16.4	6.2	2.8	7.3	4.0	1.1
	50歳代	169	50.3	14.8	21.3	9.5	21.3	10.1	5.9	3.0	11.8	5.3	8.9	3.6	13.0	5.3	5.9	13.6	10.1	1.8
	60歳代	143	44.8	9.1	23.8	9.8	21.7	9.1	4.9	2.8	5.6	2.8	11.2	6.3	14.0	7.0	2.1	16.1	12.6	2.1
	70歳代	141	44.7	12.1	13.5	12.8	19.1	17.0	2.1	1.4	5.0	2.8	15.6	4.3	14.9	4.3	2.8	22.7	14.9	3.5
	80歳以上	73	39.7	6.8	28.8	11.0	26.0	11.0	5.5	2.7	4.1	5.5	28.8	4.1	12.3	4.1	1.4	16.4	21.9	5.5
	女性全体	1,411	55.1	14.0	15.0	9.9	20.6	12.8	4.8	3.5	12.2	7.9	16.6	6.9	17.2	5.5	3.0	10.5	6.6	1.8
	10・20歳代	148	62.8	14.2	7.4	10.1	10.1	20.3	10.8	8.8	14.9	10.1	12.8	8.8	23.0	4.7	4.1	8.1	4.7	-
	30歳代	191	56.0	16.2	8.4	8.4	9.9	22.0	5.2	8.4	14.7	14.1	16.2	14.1	20.9	4.7	3.7	8.4	4.2	0.5
	40歳代	294	55.8	15.0	10.5	10.5	17.7	13.9	5.4	3.7	18.0	15.0	16.7	11.9	13.6	6.5	5.1	7.5	3.7	0.7
	50歳代	272	58.5	14.0	17.3	11.4	26.8	6.6	3.7	1.1	10.3	3.7	19.1	1.8	17.3	7.4	2.6	11.0	7.7	1.1
	60歳代	194	54.6	12.4	19.1	10.3	22.7	11.9	2.1	1.5	10.8	3.6	16.0	5.7	12.4	3.1	1.5	13.4	7.7	3.1
	70歳代	179	45.8	13.4	24.6	8.4	27.9	10.1	5.0	1.1	8.9	3.4	15.1	2.2	17.3	7.8	2.8	14.5	8.4	3.4
80歳以上	133	50.4	11.3	18.8	9.0	28.6	6.0	2.3	0.8	3.0	1.5	18.8	1.5	20.3	2.3	-	12.0	12.0	5.3	

<調査結果>

性・年齢別にみると、「台風や地震などの災害対策」はいずれの年代も最も高く、各年代別に男女を比較すると男性より女性の方が高く、特に女性の10・20歳代は6割を超えている。「認知症などの介護職員の確保」は女性の50歳代と70歳代以上が3割近く、男性の80歳以上で2割半ばとなっている。

(表4-4-1)